

令和元年9月13日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K02639

研究課題名(和文) ICT学習支援オンラインアカデミック日本語教育の開発と実践研究

研究課題名(英文) The development and practical research of ICT supported online academic Japanese language learning

研究代表者

難波 康治 (Namba, Koji)

大阪大学・国際教育交流センター・准教授

研究者番号：30198402

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本課題の目的は、最近整備され利用されるようになった動画視聴環境を日本語教育・学習の環境として活かす方策を検討するため、昨今盛んになってきた反転授業などの新しい授業形態に応じたコンテンツ制作を行い、それを実践した上で、動画を利用した新しい教育方法の開発を行うことにあった。オンライン動画の教育利用の方法について、その動機付けにおける効果を理論的に跡づけ、従来の実践の調査を行うとともに、国内外の大学と協力し、動画コンテンツ作成とその利用の効果を調査した。その結果、ショートムービーをカリキュラムに取り込み、学習者に授業外での隙間時間を利用して学習させることが有効であることが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

今後の日本の社会環境では、長期にわたって日本の社会で働く人材の育成が重要となるが、そのために、教育を受けるための基礎としての日本語支援の方策を検討することは、極めて重要である。本研究の成果は、これまで大学における日本語教育が対象としていた大学で教育を受ける学習者のみならず、いわゆる日本語教育推進法などで新たに対象とされる日本語学習者に対し、教室のみならず、教室外においても学習機会を与えるための理論的枠組みを提供する。また、コンテンツ制作の方法論などを外部の教育機関と共有して行くことによって、さらなるコンテンツの充実を図ることが可能である。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to consider measures to utilize the video viewing environment that has newly been established and used as the environment for Japanese language education and learning. To fulfill the purpose above, we have developed various learning video contents in accordance with the new lesson forms such as so-called "flipped classes" that have become popular recently. To examine the effects of motivation for online use of videos, we reviewed the previous studies on online learning and the practices learning language through movies. We also investigate the impact of creating and utilizing video contents in collaboration with domestic and foreign universities. As a result, it became clear to be useful to incorporate short movies into the curriculum and make the learner find learning opportunity to learn Japanese using the gap time outside the class.

研究分野：日本語教育学

キーワード：動画 ICT オンライン 反転授業 ショート・ムービー 動機付け

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究グループは、平成 21 年度～平成 24 年度にわたり「留学生大量受け入れ時代に向けた大学における新たな日本語教育スタンダードの構築」(10 頁に掲載)という課題のもと、カリキュラムおよび学習システムの研究開発を行ってきた。そこでは、共通基礎および専門日本語教材の開発、日本語教育に特化した LMS・SNS を含んだ教育・学習支援プラットフォーム、Web およびアプリ教材のカリキュラムへの統合等の成果が得られ、本学におけるカリキュラムの改革とともに、学外にもリソースを提供した(西口他 2011)。

しかしながら、本学における実際の留学生受け入れの増加は、平成 20 年度の 1,024 名から平成 25 年度(開始年度)の 1,985 名へと、予想を上回るペースで進み、特に英語コースを含む学部留学生と短期留学生の増加など、これまでにない種類の日本語学習者も見られた。このように、急増し、多様化する大学における日本語学習者のニーズに対して、これまで行ってきた教材やカリキュラムの改善だけでは十分な日本語学習機会の提供ができない事態が見込まれていた。

2. 研究の目的

近年、留学生受け入れ政策の実施により、大学等高等教育機関においては日本語教育へのニーズが急速に高まるとともに多様化している。本研究では、それらのニーズに対応するべく、IT 技術、特に近年利用が容易になった動画を活用し、日本語教育において革新的な教育・学習システムを開発するため、以下の 3 点をその研究課題とした。

- 1) 日本語教育における従来の e-learning システムの課題を明らかにし、動画配信および収録を積極的に取り入れた日本語教育・学習支援の方法について検討する。
- 2) すでに開発した OUS カリキュラムの成果をもとに、新たに動画配信を利用した遠隔日本語教育と、いわゆる反転授業を組み合わせるとともに、学生間での「学び」を取り込んだインターナショナル・ラーニング・コモنزの導入により多くの学習機会を提供することのできる日本語教育カリキュラムを開発する。
- 3) 単にコンテンツ制作を行うのではなく、実践とその分析を通じてその効果についての実証・評価を行ない、コンテンツおよび教育・学習支援システムの改善を行う。

3. 研究の方法

上記の目的を達成するため、本研究グループは、以下のような手順で研究課題に取り組んだ。

ショートビデオ(2分～5分の短い動画)をベースにした学習ユニットの小型化

- 十分な量のコンテンツを作成する。多くの選択ができることで動機付けをする。
- 教材はなるべく小さな Unit にして、ひとつひとつタスク化し、それを並べる。それにより、学習者には利用しやすく、講師や制作協力者には制作の負担を低減する。
- 学習者がそれを視聴して練習したのちタスクの成果を提出し、それが教員によって評価されるというサイクルを構築する。

多様な教育・学習方法に対応するリソースの開発と有効な運用方法の検討

- オンライン、ブレンDED、対面式など、多様な教育・学習方法に対応する様々なコンテンツを制作する。
- 動画コンテンツだけでなく、ワークシート、自己診断式のテストを作成(あるいは既存のリソースをオンライン化)し、オンラインでの学習を可能にする。

- 学内には、授業支援コンテンツとして、LMS を通じて提供する。

4. 研究成果

当初見込まれた動画コンテンツについては、その全てを制作するには至らなかったものの、初級基礎教材については、中級教材「ミアンのチャレンジ日記」、「NIJ 講義ビデオ」を完成し、前者は、大阪大学市民講座においても活用され、後者については、学内の授業カリキュラムの一環として活用されている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 1 件)

林盈萱・難波康治(2017) 融入映像教材與學習策略於任務型日語課程之設計 (「映像を取り入れたオンライン日本語授業のデザインと実践」) 逢甲人文社會學報 34 期、pp.107-128.

〔学会発表〕(計 1 件)

難波康治、簡佩鈴、立川真紀絵(2018) 「社会参加のためのオンライン日本語教材-『ミアンのチャレンジ日記』」文化庁日本語教育大会京都大会 京都工芸繊維大学

研究助成

〔図書〕(計 0 件)

〔その他〕

ホームページ等：<https://ciee-okini.jp/>

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：西口光一

ローマ字氏名：Nishiguchi Koichi

所属研究機関名：大阪大学

部局名：国際教育交流センター

職名：教授

研究者番号(8桁)：50263330

研究分担者氏名：村岡貴子

ローマ字氏名：Muraoka Takako

所属研究機関名：大阪大学

部局名：国際教育交流センター

職名：教授

研究者番号(8桁)：30243744

研究分担者氏名：西村謙一

ローマ字氏名：Nishimura Kenichi

所属研究機関名：大阪大学

部局名：国際教育交流センター

職名：准教授

研究者番号(8桁)：40237722

研究分担者氏名：大谷晋也

ローマ字氏名：Otani Shinya

所属研究機関名：大阪大学

部局名：国際教育交流センター

職名： 准教授
研究者番号（8桁）： 50294137

研究分担者氏名： 義永美央子
ローマ字氏名： Yoshinaga Mioko
所属研究機関名： 大阪大学
部局名： 国際教育交流センター
職名： 教授
研究者番号（8桁）： 80324838

研究分担者氏名： 魚崎典子
ローマ字氏名： Uosaki Noriko
所属研究機関名： 大阪大学
部局名： 国際教育交流センター
職名： 准教授
研究者番号（8桁）： 00721523

研究分担者氏名： 金 孝卿
ローマ字氏名： Kim Hyogyung
所属研究機関名： 早稲田大学
部局名： 日本語教育研究センター
職名： 准教授
研究者番号（8桁）： 30467063

(2)研究協力者
研究協力者氏名：
ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。